

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
夢と誇りをもち、自ら学び、 共によりよく生きる砥川っ子の育成	①家庭・地域との連携、及び全職員参画による学校運営の実現を図る。 ②ICT利活用を主として学習指導の充実と学力の向上を図る。 ③児童の心身の健全な成長を育む指導を推進する。

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
①家庭・地域との連携、及び全職員参画による学校運営の実現							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	本年度の学校目標・重点目標と教育活動の連動	・学校教育目標の実現を意識して教育活動に当たったと答える教職員100%をめざす	・諸会議等で説明し、共通理解・共通実践を図る。 ・教育目標を校長室、職員室、廊下に掲示する。 ・各担任は、教育目標にもとづいた学級経営案を作成し、実践する。 ・学校便りに掲載し、周知を図る。	B	・学校目標の掲示物や学校便りにより職員の意識向上に役立った。 ・教職員アンケートによると、「学校目標の具現化を目指す教育活動を展開している」について「あてはまる・ややあてはまる」と全員が答えた。ただ、「あてはまる」との回答は、昨年度と同じく40%台に留まった。	・学校教育目標は、教職員、児童、保護者に浸透するように、あらゆる機会を捉えて周知することに努める。また、学校内の玄関や廊下、校長室、職員室等に掲示し常に意識できる環境をつくる。 ・各学級担任は、学級経営案の中に織り込むことで、学校教育目標を意識した教育活動を進めるようにする。
	○学校評価	学校評価システム、学校関係者評価の導入による職員の学校運営参画意識の高揚	・学校運営に参画している意識を持ったと答える職員を90%以上にする。 ・自分たちの取り組みで学校が改善されたと答える職員を80%以上にする。	・学校評価に関する研修を実施する。 ・学校関係者評価委員会を実施する。	A	・教職員アンケートによると、「自分たちの取り組みで学校が改善された」について「あてはまる・ややあてはまる」と全員が答えた。また、「私は校務分掌を通して本校の学校運営にかかわることができている」については、「あてはまる」と答えた職員が昨年度の10名から12名に伸びている。	・学校運営への参画意識は、昨年度も高まりがあったが、今年度は「あてはまる」の回答がほぼ全員になった。こうした意識をさらに高めるために全職員に共有できる提案型の組織にする。 ・3年前から、分掌を個人でなく三部会制にした。そのことで各部で検討し、組織的に提案や運営ができるようになってきた。次年度も一層円滑に分掌事務が進むよう環境を整えていく。
	○開かれた学校づくり	地域との情報交換と地域素材・人材の活用	・地域との連携を図る。参観日の参加。 ・砥川小サポーターの活用。	・授業の中で地域の素材・人材を活用する。 ・地域での会合や催しに積極的に参加する。 ・PTA・地域の方々にボランティアの募集をする。区長さんを回ったり、会合で呼びかける。	A	・本年度「砥川地域連携室」が体育館2階に設置され、砥川小サポーターの登録者(地域・保護者の方)も昨年度までの2倍ほどになった。一方では、教職員のサポーターを積極的に活用する姿勢も高くなった。 ・きり発表会の参観など普段の行事について学校を訪ねて下さる地域・保護者の人数も年々増加している。	・砥川小サポーターの活動は、徐々に、確実に浸透してきている。特別な手数や時間を取らずとも自然な形で学校運営の方でサポーターの活動が見えている。この様子をさらに地域・保護者の方々に知らせして、人材の登録を進めたい。 ・授業への活用では、積極的な職員も増えてきたので、職員へも気軽に手を挙げてほしいことをPRし、さらに効果的な活用について具体的に検討する。
②ICT利活用を主として学習指導の充実と学力の向上							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	学習の基盤づくり	・漢字、音読、作文スキル、計算技能を高め、基礎基本の定着を図る。 ・学習用具や宿題の忘れ物をしない児童を85%以上にする。 ・家庭学習の習慣化。家庭学習時間 低:20~30 中:40~50 高:60~70分ができる割合を80%以上にする。 ・毎日机に向かう児童を95%以上にする。	・UDの視点にたった学習・生活環境の改善に取り組む。 ・朝の学習タイムで計算(花丸タイム)に取り組む。 ・学習の約束5ヶ条の徹底を図る。 ・学習の開始時に立腰の姿勢をとり、集中力を高める。 ・家庭学習習慣形成のために「家庭学習の手引き」を作成、配布。 ・学年に応じた家庭学習の課題の出し方を工夫をする。 ・音読活動に進んで取り組ませるために、(やまびこタイム)の時間を工夫する。	B	・個に応じた支援を全職員で取り組むことができた。 ・週2回の花丸タイムやすすくテストに取り組み、算数の成績の向上の助けとなった。94%の児童が「自分のためになった。」と答えている。 ・隔週1回のやまびこタイムを設置し音読に取り組んだ。 ・全学年で授業の始めと終わりに立腰に取り組み、休み時間との切り替えができた。4年以上はあてや振り返りの言葉を入れ、学習の目的意識を育てることにつながっている。 ・保護者の出席率が一番高いPTA総会の折に家庭学習の手引きを配布し説明した。また、毎月1週間家庭学習振り返り週間を設け周知を図った。 ・全学年共通理解して音読・漢字・計算の3本柱を中心に出し、学年に応じて課題を出した。高学年は個人差が大きく、自主学習を徹底できていない。習慣化させることが課題である。	・今後も可能な限り、個別支援に取り組む。 ・花丸タイムやすすくテスト、すすくタイムは来年度も取り組む。 ・やまびこタイムの内容や方法は各担任により様々だったので、段階的な指導ができるよう整理・検討していきたい。 ・「家庭学習の振り返りチェックカード」の取組についてPTA総会の折に詳しく保護者に説明し、実践力を高める必要がある。 ・宿題の出し方については共通理解することができた。学力向上につなげていくために、提出された宿題をどのように児童に還していくか教師間での共通理解を図ることが難しかった。
		教師の授業力向上	・教育センター等の研修に全員参加する。 ・校内研究が授業力の向上につながったと答える職員を80%以上にする。 ・「授業がよく分かる」と答える児童を85%にする。	・校内研修を深め、児童が主体的に取り組む・考える授業を日々実践する。 ・全員研究授業に取り組み、言語力の向上につながる学習過程の研究をすすめる。 ・講師招聘による研究会を行う。	A	・教育センター講座などに全員参加し、研修に積極的だった。 ・国語の全員授業を行い「校内研は授業力向上につながった」と93%の教師が解答した。 ・「授業がよくわかる」と答えた児童が約90%で、昨年度より若干ではあるが増加した。	・教育センター講座、先進校研究発表会などに参加を勧める。 ・出張などで研修した内容の出張報告会の時間を取り、研修内容の共有化を図る。 ・来年度も校内研究授業を全員で行い、教師の授業力向上を図る。 ・講師招聘による研究会を行う。
		読書活動の推進	・年間110冊以上読破する児童を70%以上になるように取り組み、学校全体の平均冊数を100冊以上にする。 ・朝読書に毎日取り組む。 ・家庭での読書習慣化。	・図書館まつりを実施する。 ・貸し出し状況を担任が把握する。 ・読み聞かせ会を定期的に行う。 ・図書だよりを毎月発行し、読書推進を呼びかける。 ・親子読書を呼びかける。	A	・月ごとの貸し出し状況を確認しながら、「読書タイム」や「学年ごとの読書30選」に取り組んでいる。 ・「親子読書」や「図書だより」、「読み聞かせ」に取り組むことで、保護者や地域との本のつながりをもつことができ、読書に対しての環境が整ってきた。 ・いつでも読める本の確保や学年に応じた読書に取り組めるようにしていきたい。	・今後も「読書タイム」や「読書30選」に取り組む。 ・「図書だより」や通信、図書館まつりなどの行事等を通じて、読書推進を呼びかける。 ・机の横に常時本を下げておき、いつでも読める本の確保を心がけさせる。

	●ICT活用教育の推進	教師のICT利活用能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を利活用しやすいように校内環境や教室環境を整備し、利用しやすい状況にする。 ICTを効果的に利活用したと答える職員を85%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育情報化推進リーダーや教務、教頭による利活用推進チームをつくり、担任の意見を取り入れて、教室環境を整備する。 ICT利活用に関する諸研修への参加を促す。 ICT利活用に関する行内研修を行い情報交換の場を設けて、ICTの利活用機器の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケート結果からほとんどの職員が効果的に利活用していると思われる。 電子黒板が常時使える状態に整備されており、日々の授業はもちろん、集会や学校行事等でも積極的に使われている。 タブレットPCが教室での授業だけでなく、体育の授業や委員会活動、休み時間の自主学習にも積極的に利活用されている。 定期的なICT支援員の来校が、効果的な利活用につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板、タブレットPCの活用の仕方は、学級の実態によって異なるので先進校の取り組みを参考にし、さらに効果的な利活用の仕方を考えていく。 研修で学んだ先進校の取り組みを紹介し、研修に参加できなかった職員にも還元する。 職員の声から挙がったICTミニ研修会を開くなどして、情報交換の場を増やす。
--	-------------	----------------	---	--	---	---	--

③児童の心身の健全な成長を育む指導を推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体づくり	歯と口の健康指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> 10時までに寝る児童を90%以上にする。 毎日朝ご飯を食べているという児童を95%以上にし、朝ご飯の内容については、(栄養・食事環境)等バランスのとれた食育指導を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回生活アンケートを実施する。 学校だより、給食だより、保健だよりにより呼びかける。 全校集会や学級活動で指導する。 食育に関する校内掲示をする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 夜10時までに寝る児童は、86.5%。(昨年度84.6%より増加) 毎日朝ご飯を食べている児童は、86.5%(昨年度96.4%より減少)しかし、朝食の内容については問題で栄養のバランスなどに偏りがあり課題である。 「早寝早起き朝ごはん」の定着は、継続的な指導が必須である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートを利用し、睡眠時間確保を継続的に繰り返し指導する 朝食内容は、授業や給食での指導を増やし、内容充実を図る。簡単朝食レシピ・栄養バランスを紹介し、家庭の協力を得て児童の実践力を高める。 委員会活動、全校集会、掲示等を通し、具体的・継続的に指導する。 フリー参観、試食会で、家庭や地域にも啓発し理解・協力を依頼する。
			<ul style="list-style-type: none"> 給食後に正しい歯磨きをしている児童を100%にする。 夜の歯磨きをしている児童を95%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健だよりや校内掲示の充実により意識を高める。 学級活動での指導を実践し、行動につなげる。 給食指導の中に歯磨きの時間を位置づける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 歯や口の健康についての指導を毎年3時間ずつ確保して、実施している。 アンケートの結果、給食後の歯磨きは100%であったが、そのうち「ややあてはまる」が22.4%と多く、夜の歯磨きは91.5%(昨年度よりやや増加)であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識としては、定着しつつあるので、今後は、行動化・習慣化できるように引き続き指導を工夫していく。また、「おうちで歯のチェック」等で、児童の口の中の健康について保護者に関心を持ってもらう機会を作っているが、歯と口の中の健康は全身の健康にも繋がっていることも併せて知らせていく。 歯磨きの習慣化のために給食後の歯磨きは、指導を徹底していきたい。 歯磨きセットを週末に持ち帰って家庭で点検・洗浄してもらっているが、その徹底も家庭に協力をお願いしていきたい。
			たくましい体づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間に元気に遊ぶ児童を85%以上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動やあそびに使える用具を整備・設置する。 遊びの中でできるようなことを授業で紹介したり実施したりする。 手洗い、うがいの習慣化を図る。 月1回のたてわり活動を充実させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間に外に出て遊ぶ児童の割合85%を達成することができた。 12月は、「なわとび」(長短両方)をする児童が多かった。 1月は、マラソン大会に向けて練習する時間もあり、90%前後児童が運動場に出て走ったり遊んだりした。 手洗い、うがいは、自主的にする児童で個人差が大きく、教師の声かけがさらに必要。
	●いじめの問題への対応	いじめのない、豊かな心を育む取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 児童の心の実態をつかむ調査や観察に努める。 人権教育の推進を図る。 さまざまな人と関わる体験活動に取り組む。 いじめ問題が発生した場合、早期に適切な対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のいじめを考える日を中心にいじめ防止について意識高揚を図る。 毎月1回「心のアンケート」で、いじめ・人権に関する調査を実施する。 砥川小を「いじめ0」にするための7つの約束を実践する。 毎月1回人権教室を実施する。 あいさつ運動、ボランティア活動への参加をすすめる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の人権教室や児童会の取り組み、6年生の平和学習等、豊かな心を育む取り組みが実施された。また、砥川小サポーター、地域のゲストティーチャーを活用した取り組み、各学年での様々な体験活動が実践され、児童の充実感が高まってきている。その反面、1割の児童が困ったときに相談できる人がいないと回答している。また、「友達に思いやりの心で接している」と感じている児童は半数にとどまっているため、コミュニケーション能力の向上を図っていくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、体験活動を充実させ、様々な人の関わりの中で豊かな心を育ていく取り組みが大切である。それと同時に、定期的なアンケートや面談等で児童の実態把握に努め、いじめを出さないとともに、児童一人一人の心の安定を図っていくことが必要である。
	●心の教育	道徳の時間の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年1回以上のふれあい道徳の公開授業を実践する。 いじめ防止につながる道徳教育を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい道徳の授業参観に保護者等の参加が多くなるように周知を図る。 「私たちの道徳」を活用して、学級の実態に応じた授業を実践する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に実施していると答えた教職員は増え、友達に対して、思いやりの気持ちをもって接することができる児童も10%増えている。 「ふれあい道徳」の公開授業を、6月のフリー参観デーでどの学年も実施することによって、保護者の参観も昨年より増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「私たちの道徳」を効果的に活用するために、全体計画の見直し、内容項目の一覧を作成し、他教科と関連させながら実施していく。 いじめ問題への対応として、「善悪の判断」「信頼・友情」「規範意識」「公正・公平」「自他の生命の尊重」を重点項目に授業を実施し研修にも努める。
		生徒指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 自分からあいさつをしているという児童を90%以上にする。 正しい掃除の仕方ができると答える児童を90%以上にする。 友達を「さん」付けで呼び合う児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会や学級指導であいさつについて指導する。 毎月1回生徒指導協議会を開き、情報交換、指導方針の検討を行う。 毎学期の生活重点目標を児童・職員で振り返り改善策を立てる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も、あいさつ・掃除・言葉遣いを生徒指導の3本柱とし、毎月のめあてとして設定した。毎月の全校集会では、生活の話の中で指導を重ねてきた。さらに、生徒指導協議会で各クラスの取り組み状況や課題を確認することで、教員、児童共に意識を高めていった。代表委員会では、言葉遣いを議題として取り上げることで、全校生徒が自分たちで良くしようとする気持ちが高まっていったので、言葉遣いについても以前より改善が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ・掃除・言葉づかい」は年々良くなってきているが、まだできていない児童も見られる。来年度も重点課題として継続的に取り組んでいきたい。また、具体的な方策を常に考えながら、全職員で指導を徹底していきたい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
----	------	--------------------	-------	-------	-----	------------------	---------

<p>特定課題</p>	<p>●小学校低学年の学習環境の改善充実</p>	<p>小学校低学年の指導に関する計画書の内容を達成する</p>	<p>・低学年の基本的な学習習慣と基本的な生活習慣の定着をめざす。</p>	<p>・話型、聴型を活用し、低学年から話を聞く態度を身につけさせる。 ・低学年で共通した目標を設定し、基本的な生活習慣の定着を図る。</p>	<p>B</p> <p>・本校では、教師側が聴型・話型を提示し、活用することで意識付けはできている。ただ、その定着には個人差があり、今後も指導の継続が必要である。 ・生活目標の人権に関する項目で、「さんをつけてよぼう」や「言葉づかい」について毎月ふり返ったり、人権集会等で友だち作りについて学習を行ったりしてきたことで、呼び捨てをしない児童が増えてきた。今後も、言葉遣いについては、継続的な指導が必要である。</p>	<p>・聴くときの構えを具体的に提示し、スキルトレーニング等に取り組むことで、定着を目指す。 ・基本的な生活習慣については、学級通信等で、学級の実態を伝えることで、啓発を行い、学校と家庭との連携を図っていく。 ・道徳等の時間を活用しながら、ソーシャルスキルトレーニングを行い、継続することで意識を高め、実践力の向上を図る。</p>
-------------	--------------------------	---------------------------------	---------------------------------------	--	--	---

<p>4 本年度のまとめ・次年度の取組</p>
<p>・学力向上については、本年度から国語をテーマとして校内研究に取り組み、音読や交流活動を通じて、表現力や伝えることに意識をもち、読解力を高める指導に努めてきた。その結果、学習状況調査での成果はまだ見られないが、児童は進んで音読をするようになってきた。今後も朝の時間の花丸タイムやすすくテストとその補充などの取り組みを継続しながら、学び方や交流活動など、国語科から他教科への波及を図っていきたい。</p> <p>・家庭学習については、今年度も4月のPTA総会でほぼ全員が出席されている保護者に家庭学習の手引きを配布して説明し、協力を依頼した。また、家庭学習振り返り週間を毎月設定し、家庭学習習慣の確立をめざして家庭の協力を得ながら進めているが、まだまだ十分とはいえず、本年度は、PTA広報紙からも地域・保護者に課題提案をしてもらった。来年度も続けて呼びかけていく。</p> <p>・ICT利活用については、電子黒板の積極的な利活用は普通のこととなり学習に欠かせないものになっている。タブレットPCについてはこれからさらに校内研修などを行い効果的な利活用を図っていく。</p> <p>・健康・体づくりの項目では、早寝早起き朝ご飯の取り組みに力を入れ、本年度は全校で「食育標語募集」に応募するなど児童の意識も高まり一定の効果も上がっている。しかし少しではあるが就寝時刻や朝食の摂り方、内容についての課題が現象した。今後も情報発信と家庭の声の受信をはかりながら更に家庭と連携協力して取り組む。</p> <p>・今年度も毎月人権教室を実施し、縦割り活動、児童会活動、地域ゲストティーチャー・サポーター活用、さらに各学年での体験活動実践を行うことで児童の豊かな心を育む取り組みを進めている。また職員研修として、講師招聘による研修や毎月開催する生徒指導協議会、教育相談研修会において共通理解し、全職員で全児童に声掛けや指導を図っている。児童の「あいさつ」や「言葉遣い」「さんで呼ぶ」については目に見えての成果があがっているように思う。来年度も安心・安全な学校を目指して取組を継続させていきたい。</p>

●は共通評価項目、○は独自評価項目